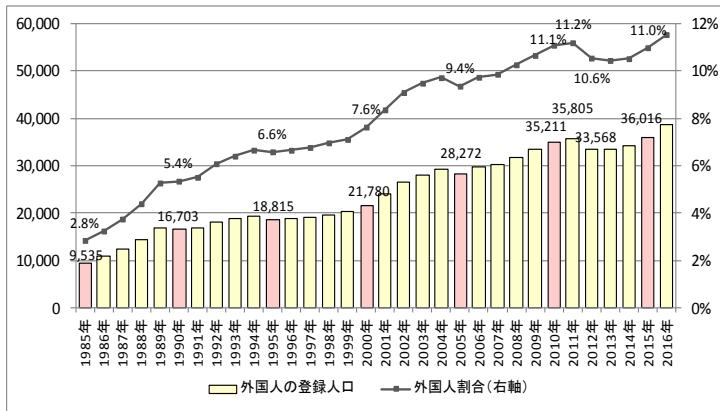


人口動向のポイント 1

- 【総人口の推移】
 - 新宿区は1990年代後半より人口は増加傾向にあります。(図表1)
- 【年齢構成】
 - 新宿区は、年少人口比率、高齢者人口比率がともに全国や特別区と比較して低く、生産年齢人口比率が高く、中でも20歳代の人口比率が高い点が大きな特徴です。(図表3、4、7)
 - ただし、1970年以降は生産年齢人口比率は低下傾向にあり、高齢者人口比率が上昇しています。(図表3)
- 【世帯構成】
 - 新宿区は単身世帯割合が全国と比較して非常に高く、高齢単身世帯の割合も高くなっています。(図表5、6)
 - 単身世帯、高齢単身世帯ともその比率は近年さらに上昇する傾向にあります。(図表5、6)
- 【外国人】
 - 新宿区の外国人数は、東日本大震災等の影響のあった2012年を除けば近年は概ね増加しており、総人口に占める外国人の比率も上昇傾向にあります。(図表2)

【図表2 新宿区の外国人人口・割合の推移】

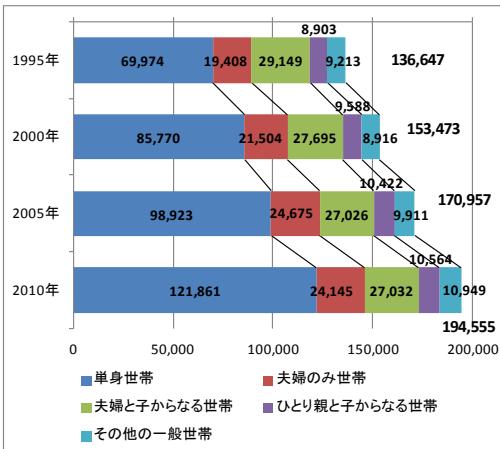
外国人数及び比率は概ね増加、上昇しています。



資料) 外国人登録・住民基本台帳より作成(各年1月1日現在)

【図表5 家族類型別一般世帯数の推移】

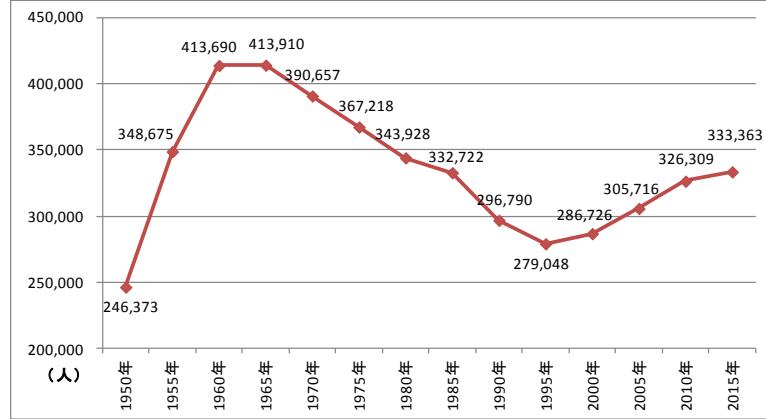
1995年と2010年を比較すると、新宿区では、単身世帯と夫婦のみ世帯が増加している一方、夫婦と子からなる世帯は減少しています。



資料) 国勢調査より作成

【図表1 新宿区の総人口の推移】

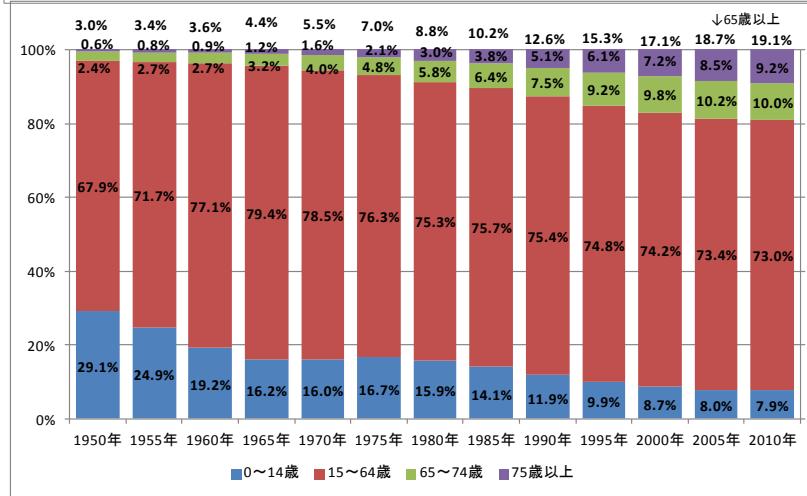
新宿区の総人口は、1965年以降減少していたが、1995年を底に増加に転じ、2015年には333,363人となっています。



資料) 国勢調査より作成

【図表3 新宿区の年齢区分別比率の推移】

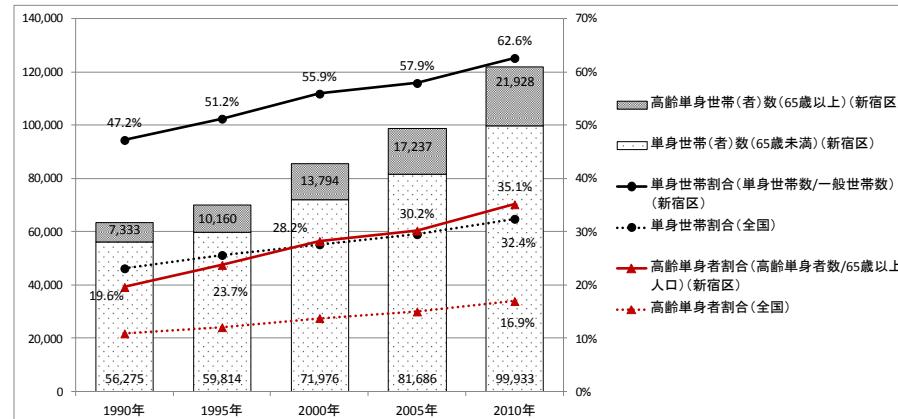
1965年以降は、年少人口比率、生産年齢人口比率は低下、高齢者人口比率は一貫して上昇しています。



資料) 国勢調査より作成

【図表6 新宿区の単身世帯数・割合の全国との比較】

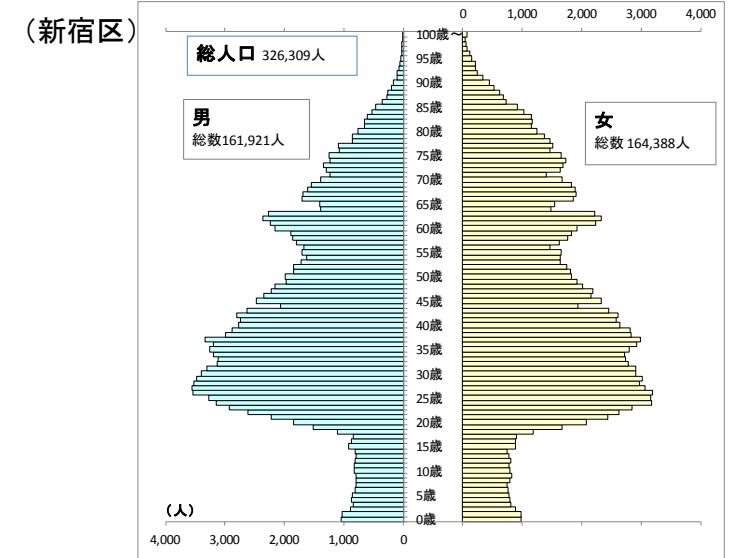
新宿区は単身世帯、高齢単身世帯が急速に増加しており、その比率も全国と比較して極めて高い水準となっています。



資料) 国勢調査より作成

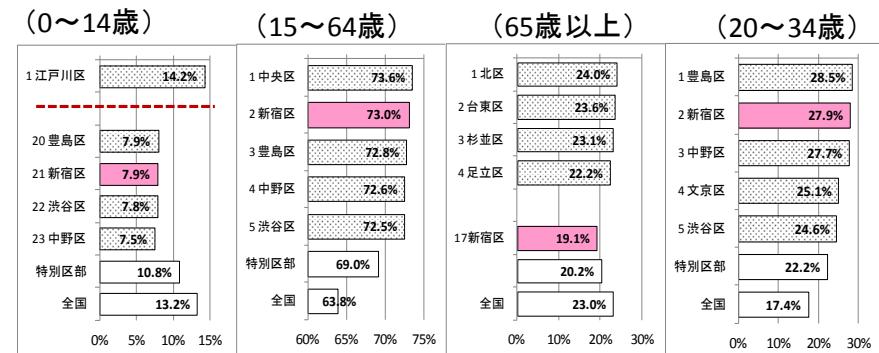
【図表4 人口ピラミッドの新宿区と全国の比較】

新宿区は全国と比較して男女とも18歳までが非常に少なく、20歳代が極めて多くなっていることが特徴です。



【図表7 新宿区の年齢別割合の全国・特別区との比較】

新宿区は全国や特別区と比較して、年少人口比率、高齢者人口比率が低く、若年人口比率、生産年齢比率が高くなっています。



資料) 2010年国勢調査より作成

基礎資料：新宿区の人口・土地利用の動向

人口動向のポイント 2

【人口増減要因の動向】

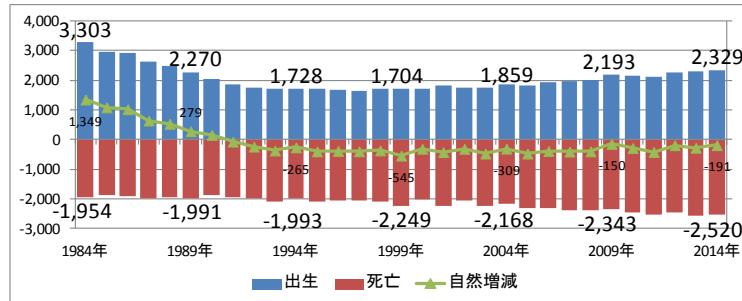
- 新宿区の出生数は、長く減少傾向にありましたが、2004年以降は増加傾向にあります。(図表8)
- 一方、死亡数は一貫して増加傾向にあり、出生と死亡を加味した人口の自然増減は1991年以降一貫して自然減の状態にあります。(図表8)
- 新宿区の年齢別社会増減率は、20歳代前半の転入超過率が高く、この世代の転入超過が新宿区の人口増加を牽引しています。(図表9)

【将来推計人口】

- 新宿区が「新宿区人口ビジョン」において実施した基準推計人口(出生数、人口流入数とも想定されるシナリオにおいて中位水準と位置づけられる水準に過程した場合の推計値)では、新宿区の総人口は2030年に37.3万人でピークを迎え、2035年まで維持し、その後減少し、2060年に33.9万人となると見込まれています。また、高齢化は確実に進展し、2060年時点の高齢者人口は12万人、高齢者比率は35.5%となる見込みです。(図表10)

(図表8 新宿区の出生・死亡・自然増減数の推移)

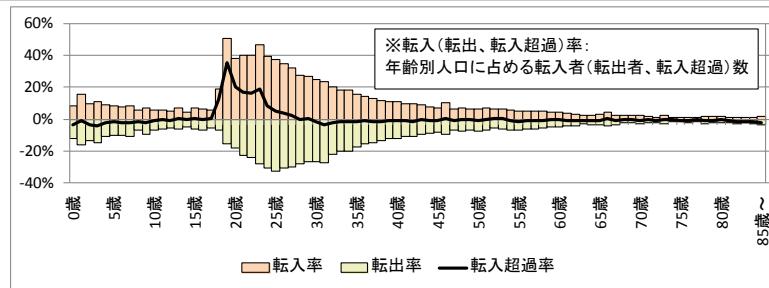
新宿区の自然増減数は1991年以降一貫して自然減で推移しているが、出生数は2004年以降増加傾向にあります。



資料)人口動態統計より作成

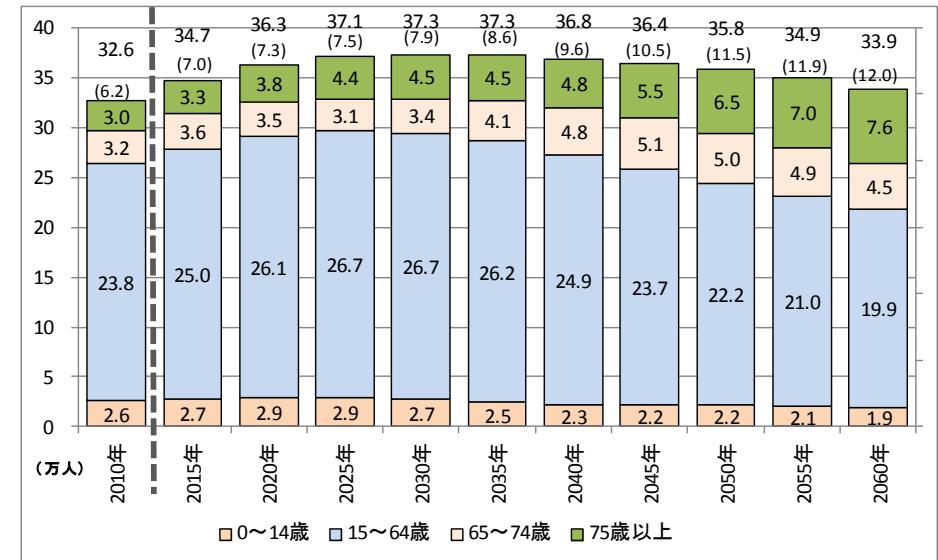
(図表9 年齢別社会増減率(2013年))

新宿区の社会増減は20歳代前半の転入超過率が高くなっています。



(図表10 新宿区の将来推計人口)

新宿区の国勢調査に基づく将来推計人口は、2030年に37.3万人でピークを迎え、2035年まで維持し、その後減少し、2060年に33.9万人となり、その時点の高齢者人口は12万人、高齢者比率は35.5%となる見込みです。



資料)新宿区人口ビジョン

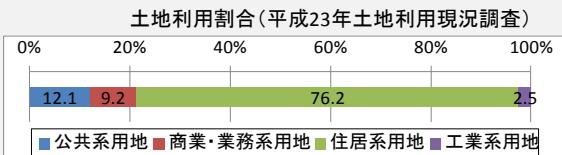
資料)新宿区人口ビジョン

土地利用動向のポイント

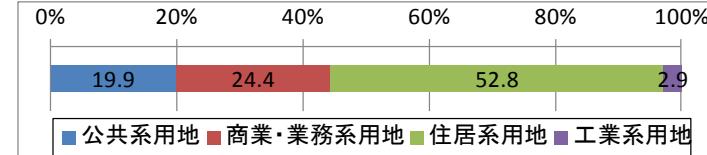
- 新宿区は、一般の住宅地や商業地に特化した市街地と異なり、多様な用途や建物形態がモザイク状に混じりあった土地利用の特性を持っています。
- 新宿のまちは、西新宿の高層ビル街、新宿駅周辺の繁華街、神楽坂のような江戸情緒のある街並み、さらに地場産業の印刷製本関係の工場が集まる地域や閑静な住宅街など、様々な地域が存在しています。

落合地域

住居系が76.2%で、他の地域と比べると割合が高くなっています。地域の多くの場所が第一種低層住居専用地域であり、平均階数は2.83階と低く、低層住宅地が多くあります。また、昔からみどり豊かな住宅地として良好な環境にある。

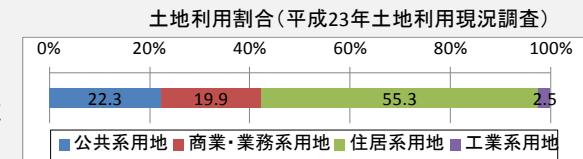


(新宿区の土地利用割合(平成23年土地利用現況調査))



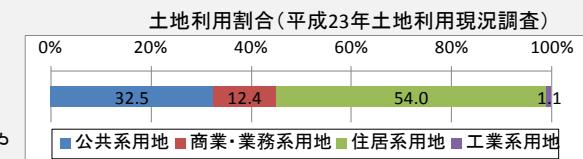
戸塚地域

住居系が半数を占め、残りを公共系と商業系が分け合っています。高田馬場駅を中心に幹線道路沿いに商業施設が立地し、その奥に住宅地があります。また、福祉施設や学校施設が多数立地しています。



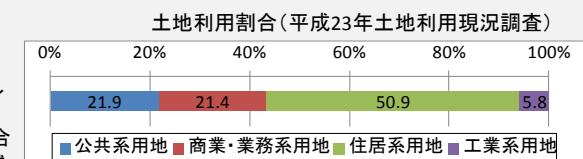
若松地域

大規模な住宅団地等があり、住居系が半数を占めています。公共系が32.5%で、他の地域と比べると高い割合であり、学校や病院が多数立地しています。戸山公園が整備され、緑の多い地域です。



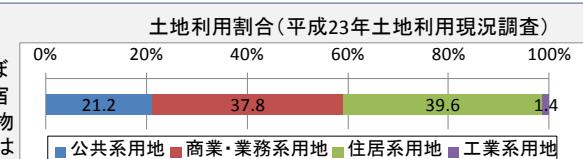
笹笹・榎地域

住居系が半数を占め、公共系と商業系がほぼ同じ割合で存在しています。工業系が5.8%であり、他の地域と比べると高い割合になっています。また、他の地域より空地(オープンスペース)が少なくなっています。



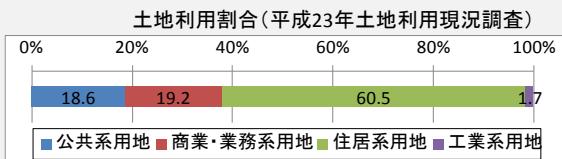
四谷地域

商業系用地と住居系用地がほぼ同じ割合で存在しています。新宿一丁目・二丁目は業務・商業建物が集中しています。若葉地区では木造住宅が密集している場所があります。新宿御苑などの大規模な公園や、広幅員の道路が整備されています。



大久保・柏木地域

住居系が60.5%で、その割合が2番目に高くなっています。大久保通りを中心に商業系用地が立地しています。幹線道路に囲まれた中に密集した住宅地が存在しています。



新宿駅周辺地域

新宿駅を擁するこの地域は、日本有数の商業集積地であり、商業系用地の割合が60.9%と高くなっています。新宿駅の東側は歌舞伎町などの繁華街、西側では超高層街区によって形成される業務地区が広がっています。超高層街区周辺部では、再開発事業等により、密集・老朽化した住宅地を高層住宅へと、土地の高度利用を図る開発が進んでいます。

